

全熱回収装置「コンタノンRCC型」

独自構造で高効率回収

ID型蒸気加湿器 蒸気を効果的に拡散

新晃工業

新晃工業（本社・大阪市北区、社長・末永聡氏）は、日本のクリーンルーム黎明期から、半導体、医薬品工場含め様々なクリーンルーム用途にエアハンドリングユニットをはじめ各種空調機器を納入している。代表的なクリーンルーム外気処理空調機では、モ-

夕直結駆動とすることで、ファンベルトや機内軸受が

不要となり、粉塵やガスの発生を低減することができ

る。産業用途のエアハンドリングユニットには、二十四時

間運転で高い信頼性も要求される。同社製品「リリーフエア」では、ファンモータをあえて二台以上の複数台構成にし、エアハンドリングユニット自体に冗長性を持たせている。

一台のモータが故障・修理中でも残りの一台でバックアップ運転でき、緊急時にも最低限の空調と外気量を確保できる。

年間を通して安定した湿度環境が必要となるインダストリアルクリーンルーム（ICR）・バイオロジカルクリーンルーム（BCR）では、冬期でも安定した加湿が必要である。自社開発のID型蒸気加湿器は、加湿蒸気を空調機内空間に効果的に拡散できる構造となっている。加湿蒸気と空気を混合する距離が短縮でき、空調機のサイズダウンにも貢献する。

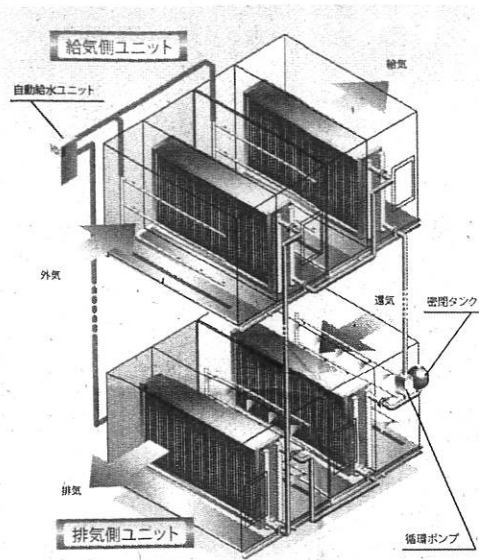
BCRのうち、動物実験施設は外気取入れ量が多く、二十四時間運転が一般的であり、空調エネルギー消費量も大きい。ESG経営やTCFDなど、企業の環境課題に対する社会的要請はますます大きくなるため、高効率な産業用熱回収装置の需要の高まりが予想される。

こうした需要に応えるのに、同社の全熱回収装置「コンタノンRCC型」は、熱交換

コンタノンRCC型

要に、同社の全熱回収装置「コンタノンRCC型」は、熱交換

装置の需要の高まりが予想される。こうした需要に応えるのに、同社の全熱回収装置「コンタノンRCC型」は、熱交換



トラブル時には営業から設計・製造部門、加えてメンテナンスサービスは、グループ会社の新晃アトモスと連携し、迅速に対応できる体制を構築している。